



みなみの風 12月号

【発行日】
令和6年12月24日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
重点目標 「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～

本日、2学期の終業式を終え、令和6年も残すところわずかとなりました。保護者の皆様にとってどのような一年だったのでしょうか。

さて、あまりにも短い秋から厳しい冬が到来しました。インフルエンザ等の流行も心配されるころですが、子どもたちはとても元気に過ごし、無事本日を迎えることができました。これも保護者の皆様が、子どもたちに深い愛情を注ぎ、学校へ送り出してくださっているからこそであると実感しています。

冬季休業(冬休み)は、年末年始を迎える期間となります。年末には様々な整理を、そして年始には新たな決意をお子さんと共有していただけたら幸いです。

国際交流事業が行われました【5年】

東海大学の留学生を迎えて交流する機会を、今年度も12月に実施することができました。グローバル化がますます進む今後のことを考えると、わずか一日とはいえ、とても貴重な機会であったと思います。

現行の学習指導要領が施行されることに伴い、5・6年生では教科として外国語が導入されたところですが、学校教育では「国際理解教育」という学びは、以前から導入されていました。しかしながら、各校において、環境面の設定が難しく、なかなか実効性のある取組は見られないと感じていたところ本町のこの取組は、非常に効果的であると実感しています。

5年生の子どもたちは、交流の後、経験したことの価値付けを自ら文章で書き表し、それを先方に送付しました。また、留学生の方々も、過日見事な文字(漢字も使われていて驚きました)で、感想を伝えてくれました。

今の小学生が大人になり社会で活躍する頃は、情勢がさらに加速化し、世界は近いものになることでしょう。また、人口減少により労働人口も減り、他国の方々の流入も進むこととなります。そんな時、今回の経験が生かされ、豊かなコミュニケーションを発揮できる人へと成長してくれると嬉しく思います。



「子育てアラカルト⑥ ～長所と短所～」

過日、年末恒例の片付けをしていたら、昔の通知表(大昔は「あゆみ」という名称はありませんでした)を久々に見付け、懐かしく思い開いてみました。改めてよく読んでみると、当時の担任の先生方から所見欄に様々なメッセージをいただいていた。「リーダー性がある」「みんなを明るくするユーモアがある」などありがたい記載ですが、「授業中に私語が多い」「積極性が足りない」「まわりに引きずられる」等の記載もあり、自分がいわゆる優等生ではなかったことを今更ながら実感しているところです。

これらのことは短所といえれば短所ですが、もっとポジティブに考えれば、次のように変換できるのかもしれない。

「授業中私語が多い」 → 「自分から話したいことがたくさんあって発信力がある」

「積極性が足りない」 → 「何事にも慎重で、よく考えてから行動する力が備わっている」

「まわりに引きずられる」 → 「まわりの友達のことを大切にして、まずは一緒に行動しようとする」

ちょっと都合のよい解釈かもしれませんが、しかしながら、子どもたちのすることにはすべて意味があって、その言動の本質を考えて、適切なサポートをするのが大人の役目ではないかと考えます。そもそも長所と短所は、紙一重であるところを見ると、私が当時の担任の先生からいただいた所見欄のメッセージは貴重な宝物であると納得できます。最近の学校では、「長所と短所」よりも「強みと課題」ということが多くなりましたが、ご家庭においても、お子さんの「強み」を、再確認してみたいはいかがでしょうか。

12月10日は人権デー 「人権朝会」をととして人権を考える

昭和23(1948)年12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目標や基準を初めて国際的にうたった画期的なものです。採択日である12月10日は、「人権デー(Human Rights Day)」と定められています。

法務省の人権擁護機関では、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、昭和24(1949)年から毎年、各関係機関及び団体とも協力して、全国的に人権啓発活動を特に強化して行います。

いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人、アイヌの人々、性的マイノリティ等に対する不当な差別や偏見、部落差別(同和問題)、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然として存在しています。

これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

法務省ホームページより引用

このことを受け、本校の人権教育担当教諭が、12月10日に人権朝会を開催しました。具体的内容は、お子さんからすでにお聞きしていることと思いますので、ここでは省略させていただきます。

「人権」とは、人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利のことです。「生きていたい」「自由でいたい」「幸福でいたい」という、すべての人に共通する3つの願いを支えるものです。

それを実現するための人権教育とは、自他の人権を正しく理解し、相互に尊重し合うという人権尊重の精神の涵養を目的とした教育活動、わかりやすく言い換えると「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」という気持ちを、自然にゆっくりと子どもたちの心の中に育てていくということになります。

今回の朝会においても、「こうしましょう」という指導ではなく、「考えてみましょう」という終わり方になっています。教職員はもちろん、子どもたちにとって身近な大人である保護者の方々や地域の方々が見せる背中が人権教育そのものであると私は考えます。

本物にふれることで得られるもの ～富士山静岡交響楽団の演奏等による芸術鑑賞会～(11月21日)

開校15年目を迎えたこのタイミングで、文化庁の支援による「舞台芸術等総合支援事業」を活用して、富士山静岡交響楽団に来校していただき、芸術鑑賞会を開催しました。

関係者の方々には、前日の夕刻からご準備を始めてくださり、念入りに準備をされている姿を拝見し、プロ意識を感じました。

当日は、演奏はもちろんのこと、楽器の紹介や指揮者体験、楽器演奏体験など、工夫されたプログラムで会が進行しました。最後には、本校の校歌を楽団の演奏のもとで高らかに歌い上げる場面もあり、とてもすてきなひと時を過ごすことができました。

令和になる前は、足柄上郡内の小学校(主に4年生)が集まり、「足柄上郡小学校音楽会」が開催され、各校の合唱や合奏を見聞きし合う場がありましたが、今は授業以外に他の音楽に親しむ機会が少なくなりました。今回の鑑賞会が、豊かな音楽ライフにつながることを期待しています。



～追伸～

本日の2学期終業式は、インフルエンザ罹患の児童が一定数見られたため体育館での集合ではなく、各教室にてリモートで実施しましたので、ご承知おきください。

個別面談にご協力いただき、ありがとうございました

12月16日から一週間にわたり実施された個別面談にお越しいただき、ありがとうございました。児童数が多いため、各ご家庭とお話しできる時間が限られてしまい、十分なものとは言えなかったかもしれませんが、ご容赦いただければ幸いです。

今回は、2学期の評価の話が中心であったと思いますが、1学期から成長した点、またもう少しがんばるべき点等が担任と保護者の方々との間で共有できたのならば嬉しく思います。

物価高騰や物騒な事件が話題となった年末でしたが、どうぞ穏やかな新年をお迎えくださいませ。